

県立大生「はっぴーすたんど」 総社・山田でサービス始める



1人暮らしの女性と和やかに会話する「はっぴーすたんど」のメンバー＝4月

「私は旅行が好きで、保健福祉学部3年生の9
世界一周クルーズに参加 人が2班に分かれて2人
したこともあるんよ」。のお年寄りを訪ね、1時
元小学校教諭の84歳の女 間程度、世間話をしたり
性が旅の記録をまとめた 悩みを聞いたりした。グ
自作のファイルを広げる ループ名は「はっぴーす
と、4人の女子学生に対 たんど」。「コーヒース
し、せきを切ったように タンドのように身近な心
思い出話を始めた。数年 のよりどころになりました
前に夫に先立たれ今は自 い」との思いを込めたと
宅に1人暮らし。「若い いう。
人が訪ねてくれて、こん リーダーの山田菜々美
なごうれいことはな さん(20)は「一日中一言
い」と喜んだ。 もしゃべらない日があ
4月24日のこの日はグ るという言葉が重かっ
ループの活動初日。同大 た。学生だからこそでき

1人暮らし宅訪問 「コロナ禍 心支えたい」

る何かをこれから探 していききたい」と話し
た。
同地区の高齢化率は 43%と市の平均より15
倍も高い。1人暮らし などの高齢者世帯が約
70軒あり、草刈りや薬 掃除といった日常の困
り事を地元のボランティア が代行している。
メンバーは60、70代の 男性で、担い手不足が
大きな課題だった。代 表を務める元民生委員
の金沢耕史さん(71)は 「地元の人には弱みを
見せにくいもので、相 手が男ならなおさら
だ。学生さんにふと漏 らした本音に大事なニ
ーズが隠れているか もしれない」と期待す
る。
「はっぴーすたんど」 の活動は、新型コロナ の感染拡大で5月は中
止となったが、感染症 が落ち着いたら、地元
ボランティアと連携し て月1回程度のペース
で行う予定。設立メン バーの一人、森中涼花
さん(20)は「はっぴーすたんど」は「ハッピー」と
『法被』の掛け言葉。 お祭りの日のようにお
年寄りたちの心を軽や かにしていきたい」と
話している。

お年寄りの話し相手

総社市内でも高齢化率が高いとされる同市山田地区で、県立大(同市窪木)の学生グループが1人暮らしのお年寄りを訪ねて話し相手になるサービスを始めた。新型コロナウイルス禍で人との交流が乏しくなる中、孤独感を抱くお年寄りの心の支えになろうとしている。(久万真毅)